

INTERNATIONAL CENTER

Newsletter Vol. 85



8~10
月号

C

7

HUMBER
School of Business

HUMBER

HUMBER

HUMBER

後期からまた、10名の新しい短期交換留学生を本学に迎えた。「北見工大に留学して良かった」と思ってくれることを、国際交流センタースタッフ一同から願いつつ、ここに買お写真とコメントを紹介する。



魏塔娜

ウェイ・タナ (中国 内モンゴル大学・化学システム工学専攻)

内モンゴル大学修士課程で有機化学を専攻しています。北見工大で学ぶという素晴らしい機会に恵まれてここでの生活をとても楽しんでいます。空気は新鮮で、町はきれいで、人々はフレンドリーです。日本文化や生活様式、日本人のものの考え方を学ぶことができます。一番重要なのは実験を終わらせることです。歌うこと、踊ること、旅行、そして美味しいものを食べるのが好きです。時間を見つけて新しい友達と旅行をしようと思います。



斯琴塔娜

スチン・タナ (中国 内モンゴル大学・化学システム工学専攻)

中国の内モンゴル大学修士課程二年生です。フフホトは、モンゴルで有名な、とても美しく、大きな町ですよ。そこでは、人々は馬を見たり、羊の肉を食べたりします。今、私の日本の生活は楽しいです。毎日日本語を勉強したり、新しい友達と山に登ったり、電器店とスーパーへ行ったりします。わたしは日本の秋がとても好きです。でも、日本で言葉を覚えるのはとても大変です。



簡巧雯

チエン・チャオウエン (台湾 中国医薬大学・バイオ環境化学科)

台湾では職安衛生を学んでいます。趣味は、写真を撮ることです。将来の希望は、日本語を上手に話せるようになることです。また、日本で旅行をしたいです。よろしくお願いします。



顧家豪

グー・ジャーハオ (台湾 中国医薬大学・バイオ環境化学科)

台湾の高雄から来ました。趣味はマジックと買い物とピアノを弾くことです。日本でたくさんものを買いたいです。例えば、食べ物と漫画などです。でも、一番したいことは、やっぱり日本語が上手になることです。そのために、日本語を一生懸命勉強したいです。



林政璇

リン・ジェンシュエン (台湾 中国医薬大学・バイオ環境化学科)

台湾の大学では栄養を学んでいます。趣味は料理をすることです。将来の希望は、日本語が上手に話せるようになることと、友達をたくさん作ることです。台湾に帰った後は、日本語が活かせる仕事がしたいです。よろしくお願いします。



Arto Allila

アルト・アリラ (フィンランド オウル総合科学大学・社会環境工学科)

フィンランドから来ました。オウル総合科学大学で学んでいます。オウルはだいたい北見と同じくらいの規模の町です。趣味はホッケー、スノーボード、水泳です。去年の夏はヘルシンキで働きました。



鄭民教

チョン・ミンギョ (韓国 江原大学・マテリアル工学科)

出身は江原道です。家族は、両親と姉が二人いて、私は末っ子です。趣味は運動で、中でもサッカーとテニスが大好きです。私の性格はまじめで、なんでも積極的に参加します。また、活発で人と話すことが好きです。留学の動機は、3年前に日本に来たとき、韓国以外の文化についてもっと知りたいと思ったことです。また、私の専攻は新素材なので、これらの研究が進んでいる日本で勉強したかったからです。一生懸命勉強して、早く上手になりたいです。どうぞよろしくお願い致します。



彭晶蓉

ボン・ジンロン (中国 武漢科技大学・土木開発工学専攻)

ここに来てすぐ、この清潔で美しくすみやすい町が大好きになりました。熱心な先生方や友達のおかげで、ここでの暮らしに慣れ、勉学の試練に足を踏み入れたところです。ここに1年間いられることを本当に嬉しく思います。全て順調です。これからいろんな驚きに出会うことを楽しみにしています。



季光輝

ジ・グワンホ工 (中国 武漢科技大学・情報システム工学科)

はじめまして。湖北省武漢から来ました。音楽はポップス、スポーツはバスケ、サッカー、卓球が好きですがあまり得意ではありません。いつも勉強しているといってもいいかもしれません。友達なしには楽しく過ごすことはできないので、友達をつくるのが好きです。貴方ともぜひ友達になりたいです。



余建毅

ユ・ジエンイ (台湾 勤益科技大学・機械工学科)

はじめまして。私は余建毅と申します。台湾の勤益科技大学で機械工学を勉強しています。趣味はスポーツをすることです。日本のドラマや音楽などが好きです。日本でJLPTのN1を取りたいです。また、日本周遊や富士山にも登ってみたいです。

新留学生歓迎会



10月24日(月)、生協の新しくなったスペースで、新しい留学生の歓迎会を催し、90人近くの学生及び教職員が参加した。鮎田学長の歓迎の言葉に続いて、許斐准教授が新留学生を紹介し、民族衣装を身にまとった学生を含め10名のニューフェイスが自己紹介を行った。学生にとっては、普段直接接することのない学長・副学長と会話を交わす良い機会ともなったようである。テーブルの上には、東日本大震災からの復興を祈念した「ずんだやき」をはじめとする料理が並び、参加者にはぎやかな歓談のを楽しんでいた。

語学研修

@トロント

今年の夏は、中国、ドイツ、カナダの三カ国で語学研修が行われた。参加国の研修が同時期に実施されるのは初めてのことであり、かつヨーロッパでの研修も今回が初である。今号から3回にわたり、現地での様子を報告する。まずは、英語研修@トロントから！

授業について



二週目にはいると、最初はあまり聞き取れていなかった英語も徐々に慣れ、授業中に言っていることはほとんど聞き取ることができるようになった。また、文法などの問題を解くことは劣らないと感じた。やはりほとんどの人が高校の時に、定期試験やセンター試験にむけて勉強をしていたためかもしれない。しかし、いざ会話をしようとする、言葉が出てこないことが多い。普段から会話が少ないといわれている日本人ならではの問題かもしれない…。(笹山隼輔)

先生も生徒も授業をととても楽しんでいた。ディスカッションが特に印象的で、たとえば、「自由貿易上、先進国は発展途上国の借金を許すべきかどうか」という議論をしたとき、メキシコから来た女の子が「アメリカは絶対にメキシコの借金を許して、なかったことにしてくれたりほしくないわ」と言った。同じ20歳だけどこの子は自国の発展のためにここに来ているのだなと思った。それに、日本と違い、カナダでは相手の意見に異論があつたらすぐに口に出していた。どちらがいいというわけではないが、ただただ「自由だな。」と思った。(南遥佳)



クラスメート



下は17歳くらいから上は50代位と色々な年代の人達が入っていた。既に仕事をしている人もいたし、結婚して夫婦で学びに来ている人もいた。皆、これからの夢や目的を持っていて、英語を学んだ後に自分の専門を学ぶと言ったように、英語を学ぶことは通過点に過ぎず、そのずっと先を目指していた。もうすぐ就活して、卒業して就職して…といったお決まりの人生はいくらでも変えられるんだと、なんだか拍子抜けしてしまった。誰かと何か一緒にないと不安になる人生ではなく、形式張った人生なんかでもなく、一人ひとりにとって特別な人生を歩んでいる姿はととてもキラキラしていて活気に満ちていた。(梶原奈々)



見学について

いろいろな場所に行ったが、CNタワーとナイアガラの滝はととても印象的だった。CNタワーからは美しいトロントの街並みやオンタリオ湖を眺めることができた。オンタリオ湖はととても大きく、向こう岸が全く見えなかった。ナイアガラの滝の迫力はすごく、水しぶきでびしょ濡れになった。メジャーの観戦もとてもよかった。あまり野球には興味はなかったが行ってみると迫力満点で楽しかった。(田邊正人)





参加学生
 梶原 奈々 (マテリアル4年)
 南 遙佳 (機械3年)
 佐藤 佳美 (機械2年)
 高木 健司 (機械2年)
 吉田 雄太 (電気電子2年)
 田邊 正人 (機械・社会環境1年)
 笹山 華輔 (情報電気I・II・III1年)



自分の変化



一番変わったことは英語への認識。コミュニケーションをとるためのものだということが頭では分かっているつもりでもやっぱり勉強する科目というイメージの方が強かったが、今回の語学研修でしっかりと“英語＝コミュニケーションをとるもの”という概念を得ることができた。もっと沢山のことを英語で伝えたいと強く思った。ホストファミリーはとても素敵な家族で、英語をうまく喋れない私にも3週間常に笑顔で親切に接してくれた。(佐藤佳美)

国に対しての固定観念や偏見などがなくなった。インターネット上では、日本人は他の国を見下している傾向があると思う。でも、実際に他の国の人と話してみると、むしろ自分達に劣等感を感じる。他の国からの留学生は自分の意見をしっかりと持っているし、それをしっかり相手にわかるように主張することが明らかに日本人より優れている。そこは見習いたいし、尊敬できた。実際に会わないとわからないことがあると思った。(吉田雄太)

この研修は予想をはるかに超える素晴らしいもので、自分の英語学習を見直すだけでなく生き方まで見つめなおすことになった。日本で毎日をいつも同じことの繰り返しだと錯覚してあたかも”死んだ”ように生きていた頃とは対照的に、この3週間が一生であったかのように本当の意味で“生きる”ことができたのではないかと思う。人生に同じ日なんて2度とない。日々を無駄にせず限りある一生の中の今日一日を積極的に生きていきたいと実感できる充実した生活を送ることができた。(高木健司)



インターナショナルCアワー

期末試験最終日の8月10日、国際交流センター教員室の中庭で、インターナショナルCアワー初の企画である流しそうめんを行った。OFICメンバーが3年ほど前から温めてきた企画であったが、北海道では竹が容易に入手できないことや、実施場所の難しさなどによりなかなか実現に至らなかったが、関西に就職したOFICのOBが竹を調達・送付してくれたことで、今回ついに実施にこぎつけた。長さ数メートル以上の、手作りの竹管の周りに集ったのは、留学生、日本人学生、そして浴衣姿の子どもたちを含む30数名。当日は最高気温が34度という、そうめん日和で、涼しげに流れてくるそうめんを皆歓声を上げながらすくいあげていた。



そうめんが一段落ついたところで、次はスイカ割り。留学生が次々に挑戦したが、目隠しをして10回回ってからのスイカ割りは案外手ごわく、中には回っただけでめまいをを起こして寝そべってしまう学生も。最後は4人目の挑戦者、韓国からの短期留学生、マ・ヒュンギルさんが、声援に励まされつつ3回目の振りおろしで見事にバットを的中させた。

マレーシアからの留学生、リディアナ・ロスランさんは、「ほとんどの人が右利きだから、流れの右側が混んでいました。だから、左側に立って左手で箸を持ち、自分の箸さばき能力を試してみた」とのこと。実はラマダンの断食中で、「二刀流」ですくい取ったそうめんは、皆他の人に食べさせたにもかかわらず、「マジで楽しい」と言いながら、最後は一口サイズに切ったスイカも流して、子供たちを喜ばせていた。

後期の最初のインターナショナルCアワーは、新しい留学生を多数迎えて10月7日に盛大に行われた。この日のテーマは「折り紙」。プログラムを担当してくれたのはOFICの新メンバーで、日本の文化に親しみながら交流ができるようにと、テーブルの上には各種折り紙とさまざまなサンプルが並べられた。留学生は日本人学生や市民の参加者の手ほどきを受けながら簡単な折り紙を楽しんでいたが、中には作り方の紙を見ながら複雑な作品に挑戦する学生もいた。

会の最初に、折り紙の歴史に関するプレゼンテーションを英語で行った南遥佳さんは、夏休みにカナダで行われた本学の短期語学研修に参加して、英語漬けの3週間を終えて帰国したばかり。「英語でプレゼンテーションをして理解してもらうことの難しさは知っていました。聞いてくれる人がいるからこそ発音やイントネーションの練習にも力がいりましたし、その分身に付けることができました。留学生の皆さんに折り紙のことが正しく伝わっていると嬉しいです」と話していた。



今後の予定

- 11/1 (火) ●国立勤益科技大学(台湾)訪問 (吉田副学長)
- 11/2 (水) ●中国医薬大学(台湾)訪問 (吉田副学長)
- 11/16 (水) ●留学生健康診断 11:00~12:30 於:保健管理センター
- 11/19 (土) ●北見市国際交流~カーリング体験 9:00~17:00
於:常呂町カーリングホール
- 11/25 (金) ●インターナショナルCアワー 16:30~
於:総合研究棟3階ミーティングルーム テーマ:日本の「こなもん」文化
- 11/25 (金) ●国立勤益科技大学(台湾)創立40周年記念式典出席 (吉田副学長)
- 11/29 (火) ●短期語学研修及び短期留学報告会 16:20~17:50 於:講堂